


国指定重要無形民俗文化財／大分県豊後高田市

てん ねん じ
天念寺

しゅ じょう おに え
修正鬼会

の世界

長岩屋修正鬼会保存会



「くにさき」の
一般に恐ろし
鬼は幸せを届
修正鬼会の晩
「くにさき」で

—目次—

- ・修正鬼会の舞台「天念寺」…………… 3
- ・修正鬼会とは？…………… 5
- ・修正鬼会のプログラム…………… 7
- ・世界農業遺産と修正鬼会…………… 11
- ・日本遺産 鬼が仏になった里くにさき…………… 13
- ・修正鬼会を守り伝える人々…………… 14

※本冊子は、国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会の令和2年度地域活力支援事業補助金を活用して作成したものです。

寺には鬼がいる。
いものの象徴である鬼だが、「くにさき」の
けてくれる。
、共に笑い、踊り、酒を酌み交わす。
は、人と鬼とが長年の友のように繋がれる。

日本遺産 鬼が仏になった里「くにさき」ストーリーより抜粋



修正鬼会の舞台「天念寺」

■修行の寺・天念寺

天念寺は六郷満山屈指の修行の寺院で、養老2年（718）に仁聞菩薩が開基したと伝えられています。堂宇は長岩屋川沿いにそそり立つ岩山に空いた洞穴の中にあつて、上流側から本堂・身濯神社（旧六所権現社）・講堂が横並びに展開しています。また、境内脇を流れる長岩屋川の中の巨石には「川中不動」とよばれる磨崖仏があります。

境内の後背地にある切り立った奇岩の連続は天念寺耶馬と呼ばれ、六郷満山の僧侶たちによって峯道が開かれ、龍門岩屋、小両子岩屋、火打岩屋といった岩窟が点在する修行場となっています（平成29年に国の名勝指定）。板碑や宝篋印塔などの中世石造物の他、江戸時代に制作された石仏が残されており、岩屋が継続した信仰の場であったことが分かります。また、付近は六郷満山の僧侶たちが国東の山々を巡る「峯入り」のコースでもあります。高く見上げた尾根に架かる石造の太鼓橋「無明橋」は、天念寺耶馬のシンボルであり、峯入り最大の難所として知られています。



天念寺講堂と天念寺耶馬。手前に川中不動



火打岩屋



無明橋

■六郷満山とは？

「六郷」とは国東半島の6つの郷（来縄・田染・伊美・国東・武蔵・安岐）のこと。この地にかかれた天台宗寺院全体を総称して、六郷山・六郷満山と呼びます。伝説では八幡神が仁聞菩薩となってあらわれ、国東の山々で修業し、養老2年（718）頃に、半島の各地に28の寺院を開き、6万9千体の仏像を造ったのが始まりといわれています。

■天念寺の仏像

天念寺には優れた平安時代の仏像が多く残されています（木造阿弥陀如来立像（国指定）、木造勢至菩薩立像、木造釈迦如来坐像、木造日光・月光菩薩立像、木造吉祥天立像（いずれも県指定））。

中でも木造阿弥陀如来立像は、かつては天念寺耶馬中の小両子岩屋にあったと伝わる像高198cmの巨像です。両手先を除く像全体を榎の一木から彫り出しています。大粒の螺髪、上脛を厚くして伏し目を強調した面相、Y字状に浅く彫られた衣文などに古様を留めており、平安時代後期の特徴がよく表れた優品として高く評価されています。

他の5体の仏像も、平安時代後期に作られた像で、いずれも一木造。木造釈迦如来坐像を中心に天念寺本堂に祀られています。

現在は、木造阿弥陀如来坐像及び木造勢至菩薩立像は、鬼会の里歴史資料館に展示されています。



木造阿弥陀如来立像（国指定重要文化財）

■谷全体が天念寺の境内

かつては長岩屋の谷のいたる所に「坊」とよばれる小寺院が開かれていたとされ、「住僧」という身分の者しか谷の中に住むことを許されていませんでした。その範囲は現在の戴星学園の辺りから上長岩屋に至るまでの範囲とされています。すなわち、谷全体が天念寺の境内と位置付けられており、寺と地域は一体化していたと言えます。

長岩屋というのは、現在では地区名を表していますが、中世には寺院の事を指していました。講堂、身濯神社は横に長い岩屋の中に作られており、長岩屋の由来となったことと、この岩屋が寺院の中心であったことが分かります。

六郷満山寺院においては、講堂はムラ全体の法会を行う場として、非常に重要な建物であり、修正鬼会もその講堂で行われます。寺院と地域が協働して実施する修正鬼会の姿に、かつての歴史の面影を見る事が出来ます。

なお、現在の天念寺は無住で、付近の長安寺住職が兼務するようになり、院主となって修正鬼会を執行しています。



天念寺境内図

修正鬼会とは？

～「くにさき」に春を呼ぶ鬼～

■六郷満山を代表する行事

六郷満山を代表する行事の一つが「修正鬼会」であり、右図にあるように江戸時代には国東半島各地の天台宗寺院で修正鬼会が執行されていました。江戸時代の修正鬼会は西組・中組・東組に分かれて、旧正月の半月をかけて、国東半島を巡りながら行われていました。

現在では、毎年旧正月7日に行われる豊後高田市の天念寺と、隔年交代で行われる国東市の成仏寺、岩戸寺の3ヶ所のみが古い所作や規模を維持しながら継承しています。いずれも国重要無形民俗文化財に指定されています（昭和52年（1977）指定）。

その他の寺院では、修正鬼会は鬼面の供養をする小さな法会として継続されていることもあります。西組では修正会、中組では面供養、東組では面飾りと呼ばれています。



国東半島の修正鬼会地図

■修正鬼会のはじまり

修正鬼会は新年の仏事である「修正会（修正月会）」と、悪鬼を追い払う宮中行事「追儺^{ついな}」が融合したものとされています。

修正会とは文字通り「正月」に修める法会で、天下泰平・万民豊樂を願うとともに仏法興隆などを祈願する新年を祝う行事です。追儺は現在でも平安神宮で執り行われているほか、鬼が出てくるため「鬼会」の名を伝えている場所もあります。また、節分の「豆まき」もその名残りとして残っています。

国東半島の修正鬼会がいつ頃から始まったかは定かではありません。伝説によれば、仁間菩薩が国家安穩・五穀成就・万民快樂の諸願成就のため、養老年間（717～724）に六郷満山の僧侶たちへ「鬼会式」6巻を授けて始まったとされています。

史料から探れば、平安時代に古文書には「修正会」が、鎌倉時代末期の帳簿類には「鬼会」という言葉が登場します。すなわち、「修正会」と「鬼会」は別々の行事として執り行われていました。江戸時代になると、法会の中心であった修正会に、日程的に近かった鬼会がまとめられて、現在のような「修正鬼会」の形になったと考えられています。



仁間菩薩像(部分) 長安寺・蔵

仁間は八幡神の化身とされた伝説上の人物。『八幡宇佐宮御託宣集』によると、八幡神は宇佐神宮の神宮寺である弥勒寺の初代別当・法蓮を導師として出家し、法蓮など4人の行者とともに国東半島の山々で修業したといわれています。

持ち物は
“まさかり”

髪はオニヤッシャ
(リュウノヒゲ)



小松明も体の紐も
12列の結び目があります

さいばらい 災払鬼

法蓮や愛染明王の化身と
されています

足袋



背中に鈴があり、
動くと鳴ります

■修正鬼会の“鬼”の特徴

修正鬼会に登場する鬼は、仏の化身とされ、法力を含めた松明の炎で人々を叩く“御加持”により人々に幸せを届けます。天念寺の場合、黒の荒鬼は不動明王や仁聞菩薩の化身とされ、不動刀という木刀を持っています。赤の災払鬼は愛染明王や法蓮（後述）の化身とされ、まさかりを持っています。

天念寺の鬼面は、昭和初期に長安寺の鬼面を手本に作られたものです。角がなく、顔全体に何本も筋があることは、西国東の鬼の特徴です。また、大きな耳は衆生の願いを聞き届けるためにあるともされています。

鬼の装束を身に着けること（鬼カラゲ）は1人ではできないため、カイシャクがその役目を担います。手足や体を縛る縄は、鬼の強すぎる力を抑え込む意味もあるようですが、その結び目はそれぞれ月の数と同じ12ヶ所（閏年の場合は13ヶ所）となっており、太陰暦や農業と関係が深いとされています。鬼役が頭に縛る植物は、オニヤッシャ（リュウノヒゲ）と呼ばれ、豊かに実る稲を表していると言われています。



修正鬼会の面



持ち物は
“不動刀”

鬼の体を縛る
紐は「うー」と
呼ばれるもので、
木の皮などが
材料です



松明に法力を込め
る荒鬼

草鞋

荒鬼

仁聞や不動明王の化身と
されています



カイシャクにおぶさって講堂を後にする鬼

鬼は非常に穢れを嫌う存在であり、地面に足をつけてはいけません。講堂への出入りの際にはカイシャクにおぶさっています。地面に足が付いた場合、鬼が暴れだし、本当の鬼になってしまうという伝承が各地に残されています（上長岩屋の鬼死岩や、長安寺の鬼雁木など）。

修正鬼会のプログラム

修正鬼会の行事の内容を簡単にまとめてみました。鬼会が近くなると、地区の人々が集まって大松明を作ったり、餅や飾りなどを作ったりします。事前の準備は大変な手間がかかりますが、天念寺の修正鬼会は、まさに長岩屋地区を挙げての一大行事です。

① 事前準備—松明づくりなど

事前の作業で最も大変なのが、高さ4m、径約50cmにもなる大松明(オオダイ)作りです。杉や竹を束ね、藤蔓で結わえていきます。結び目は12ヶ所(閏年は13ヶ所)です。現在は3本の大松明を作ります。

他にも、講堂を飾るための餅や野菜や、祈禱札や道具類の準備を行うなど、地区の方々は大忙しです。



大松明づくりのようす

② 当日一昼の勤行～垢離取り

修正鬼会の日、当日は昼(15:00頃)から天念寺本堂にて勤行が行われ、僧侶による読経が続きます。夕刻(19:00頃)になると、川中不動前で院主と衆僧が読経するなかで、コーリトリ(垢離取り)という、鬼に扮する僧侶とテイレシ(介錯)が川に入って身を清めます。テイレシ(タイレシとも)は地元住民の役であり、大松明を奉納するほか、鬼の介添えを務めるなど、修正鬼会には欠かせない役割です。

その後、院主とテイレシが盃を交わして結縁する「盃の儀」が行われます。



コーリトリ(垢離取り)のようす

③ タイアゲ(20:00頃)

大満坊跡前の広場で点火した大松明3本を、講堂と身濯神社に献灯して、講堂前・身濯神社前・本堂寄りに立てます。大松明の尻を固定して、火口を講堂に向けて左に3回、右に3回まわして、上下に3回振ります(三々九度の法と言って、3回を3セット繰り返すことが縁起の良いとされています)。火の粉が夜空に舞い飛んで、祭りの雰囲気は盛り上がります。

タイアゲが終わると、華やかな法衣に身を包んだ院主以下の衆僧が講堂に移動して、いよいよ夜の勤行のはじまりです。



タイアゲのようす

夜の勤行（座行～立役）について

タイアゲが終わると、僧侶は講堂に集まります。いよいよ修正鬼会の夜の法会が始まります。

西側に小壁に貼られる^{まじょう}差定（プログラム）はおおよそ2つの場面に分かれ、前半の綺麗な法衣で行われる座行は修正会、後半の黒の道服で様々な舞をする立役は鬼会の部分とされています。



夜の勤行のようす

④ 読経（20：30頃）

修正鬼会における読経は、『鬼会式』と呼ばれる書物に沿って、鬼会節と呼ばれる独特の節や調子を付けて行われます。

⑤ ^{まいげ}米華（21：20頃）

差定の米華から僧侶たちが黒い道服に着替え、立役の所作に移ります。

右手に^{こうずいぼう}香水棒という道具を、左手には膳に載せた白米・藁・牛玉杖（12頁参照）を持って、節に合わせてリズムカルに舞い、舞の最後に膳を振り上げ、後方に白米などを撒きます。

撒かれた白米を食べると健康に、藁は身体の痛むところに巻けば治り、牛玉杖は田んぼの角に立てておくと虫除けになるといいます。



米華のようす

⑥ ^{こうずい}香水（21：30頃）

差定に書かれた順番に、香水棒を持って様々な所作で舞います。鬼会が無事に済むように神仏に願ったり、仁聞ら伝説の僧侶たちの修行を再現したり、一つひとつに意味があります。

最も激しい香水では、足を踏みながら調子をとつつ、香水棒を上下や横に振りながら踊ります。経文の結句“オンソワカ”で一回転して床を香水棒で突きます。



香水のようす

■香水棒とは？

長さ約90cm、直径約4cmほどのハゼの木の木肌をうすく削って、4段に削り花をつけたもの。名前の通り、釈迦誕生時の浄水の湧く様子を表しているとも、御幣の古い形態という説もあります。



⑥ 四方固 (21:50頃)

堂内の四方に四天王を奉請し、東西南北を结界して、鬼が堂外に飛び出すことや、法会を邪魔する魔物の侵入を防ぎます。

僧2名が刀を持ち、向き合って刀を3度打合せます。次に松明を持ったカイシャクを従えて講堂の外陣（廊下）に出ると、“地結”“金剛結”“四方結”“金剛結”と呪文を唱え合い、講堂に结界を張ります。



四方固のようす

⑦ 鈴鬼 (22:00頃)

男女の面をかぶり、右手に鈴、左手にガラガラ（ウチワとも）を持って10種の舞を演じます。ガラガラには米粒が入れられており、振るとガラガラと音が鳴ります。

荒鬼・災払鬼を招くための法舞とされていて、軽快な所作の中に二鬼を招く動作が含まれています。とくに、最後の法舞は“オニマネキ”と呼ばれています。

鬼とは言い難い面貌の「鈴鬼」ですが、鈴鬼も立派な鬼です。鬼は祖霊とも考えられ、荒鬼たちは荒御魂（アラミタマ）、鈴鬼たちは和御魂（ニギミタマ）にあてはめられるともされています。



鈴鬼のようす

■ 鬼会に登場する様々なお餅

① オオカガミ (大鏡)

オオカガミは、横55cm×縦30cmの長方形の大きな餅で、竹やウラジロ・ツルシバとともに縛って講堂の須弥壇の鴨居から吊るします。



② 鬼の目 (ミッタマ・ヒッタマ)

鬼の目は、縁起物の餅で、鬼走りの際に撒かれるが、拾った者に鬼は容赦なく松明で叩かれるので、餅をちぎって分けなければなりません。



③ 鬼のオクワエ

暴れる鬼を鎮める鬼後咒のために用意する円い餅。くわえさせると鬼はおとなしくなります。

④ オクツガタ

沓の形をした大きな餅。鬼会の終了後に院主に渡します。



⑤ カザリモチ

四角く切った小さな餅を串に12個ずつ刺して供えます。閏年は13個にします。



⑥ 鬼の目覚まし

僧侶たちが長い勤行に疲れ、眠くならないように作られる辛い味噌を塗った焼餅。



⑧ 災払鬼・荒鬼の登場 (22:30頃)

鈴鬼が退場すると、カイシャクに背負われて、2名の僧侶が扮した災払鬼と荒鬼が登場します。「鬼招き」の所作の後、鬼は松明に法力を込める動作をし、カイシャクたちを引き連れ、堂内を暴れまわります(鬼走り)。松明を打ち振りながら“ホーレンショーヨ、ソラオンニワへ(≡法蓮称揚、そら鬼庭へ)”と連呼して飛び回るので、火の粉は飛び散り、堂内は騒然となります。また、2体の鬼は講堂の中心で松明の火を合わせる「火合わせ」を行います。

その後、院主が「鬼の目」という餅を撒きます。拾った人は鬼に餅を見せびらかしながら逃げ回ります。鬼がこれを追いかけて、持っている松明で叩きます。鬼に叩かれると一年健康で過ごせるとされているため、人々は競って餅を拾い、逃げ回りながら、餅を小さくちぎって分け合います。「鬼の目撒き」が終わると、参拝者を講堂の内陣に入れて、災払鬼・荒鬼が松明で背中や肩をたたいて無病息災などを加持します。その後、「鬼鎮め」を行って鬼会は終了します。ちょうど日が変わる頃に全ての行事が終わります。



災払鬼の登場のようす

■法蓮って？

宇佐神宮の神宮寺であった弥勒寺の初代別当。医術に長けていたことから、多くの人々の病気を治したとされています。『続日本紀』大宝3年(703)及び養老5年(721)の記述から、医術の功績により、豊前国に40町の領地を与えられ、「宇佐君」の姓を賜ったとの記述があります。



鬼の目撒きのようす



御加持のようす

■天念寺と岩戸寺・成仏寺の鬼会の違い

天念寺の修正鬼会は、講堂での法会で完結しますが、国東市の岩戸寺・成仏寺の修正鬼会は、講堂での所作が終わると、集落に繰り出して、各家を回ってお経をあげ、村人からお酒と御馳走でもてなされます。鬼たちは朝方になってようやく講堂へ戻り、鬼後呪きごじゆによって僧侶に戻ります。江戸時代の六郷満山は、西組・中組・東組の3つに分かれて修正鬼会を行っており、様々な所作に少しずつ違いがあります。



世界農業遺産(GIAHS)と修正鬼会



国東半島宇佐地域世界農業遺産
Kunisaki Peninsula Usa GIAHS

■世界農業遺産とは？

国際連合食糧農業機関（FAO）が、次世代に継承すべき伝統的な農業のシステムを認定し、その保全と持続的な利用を図るものです。農業のシステムには、農法だけでなく、景観や農業文化、生物多様性など複合的な要素が含まれています。

2021年3月現在、日本では11地域が認定されており、多種多様な伝統農業に対する保全活動が行われています。



複数のため池を使い、水資源を最大限に活用する循環型の農林水産業のシステム
(写真は江戸時代に築造された田染小崎の空木池)

■クヌギ林とため池がつなぐ

国東半島宇佐の農林水産循環

国東半島は、瀬戸内海式気候による雨の少なさと、火山性の地質による土地の保水力の低さから、水の少ない土地と知られています。国東半島の先人達は、約1200ヶ所のため池の造築、クヌギの植林に取り組み、半島の隅々にまで安定して水を届ける農林水産循環を完成させました。

谷筋に連結された複数のため池を、連携して使用することで、水資源を効率よく活用する農法に加え、しいたけ栽培などに利用されたクヌギが腐葉土化して水の涵養に役立っていること、豊かな自然や生物多様性、傑出した農村景観・伝統文化が残ることも高い評価を受けています。



クヌギの原木を使用したしいたけ栽培。大分県は乾しいたけの生産量が全国1位(上) 中世の土地・水利用を現在に伝えている田染荘小崎の農村景観(下)

■長岩屋地区と水害の歴史

長岩屋地区は細い谷間の集落で、かつては長岩屋川がよく氾濫し、水のコントロールには苦労してきた歴史があります。それらの水害での被害を教訓として活かすため、様々な伝承や悲話が伝えられています。

長岩屋川の中にたたずむ川中不動は、川の氾濫を鎮めるために作られたという伝承がありますし、長岩屋川上流の三畑ダムの決壊によって発生した昭和16年の水害の際に、桑野繁訓導が児童ともに洪水に流され殉職した悲話が石碑とともに伝わっています。

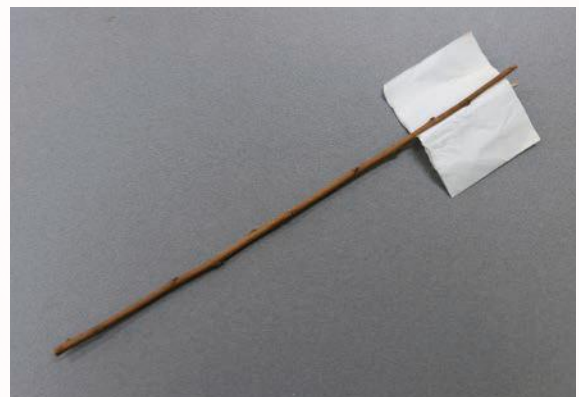


長岩屋川と川中不動

■農業神としての修正鬼会

現在の修正鬼会は、特に五穀豊穡・無病息災などにご利益があるとされ、須弥壇の薬師如来を野菜や餅で飾る荘厳、縁起物の白米・藁・牛玉杖を撒く米華、鬼の目を撒いて奪い合うシーンなど、農作物なども多く登場し、農業との密接な関係性がうかがい知れます。

修正鬼会の鬼は小正月に現れる来訪神の性格も持っています。小正月の来訪神は、秋田県男鹿半島のなまはげなど全国に分布し、集落を見守る先祖の霊として春を告げ、五穀豊穡などを叶えるとされています。



牛玉杖(ゴオウツエ)

米華の際に撒かれる縁起物。田んぼの水口などに差しておく、虫除けにご利益があるという。トシノカズとも。

■修正鬼会が地元の農業にもたらすもの

このパンフレットでも紹介してきた通り、天念寺修正鬼会は、長岩屋地区総出で行われる伝統行事で、準備から当日のタイレシ・カイシャクなどの仕事に至るまで、多くの共同作業があり、これらを通じて長岩屋地区の住民の結束力が強められています。修正鬼会に関する行事があると、地域を離れた方も天念寺に駆け付け、一緒に作業に取り組みます。



鬼とともに舞う

日本遺産 鬼が仏になった里「くにさき」

■日本遺産とは？

地域の歴史・文化財にまつわるストーリーを認定するもので、ストーリーを核とした情報発信を行い、観光振興や地域活性化を図る支援をするものです。

豊後高田市と国東市が共同で申請した鬼が仏になった里「くにさき」は、平成30年5月に日本遺産に認定され、修正鬼会をはじめとする多くの文化財を発信するための取組を進めています。



日本遺産くにさき
特設ホームページ



「くにさき」に存在する多種多様な鬼
かつては各寺で修正鬼会が執り行われてきた

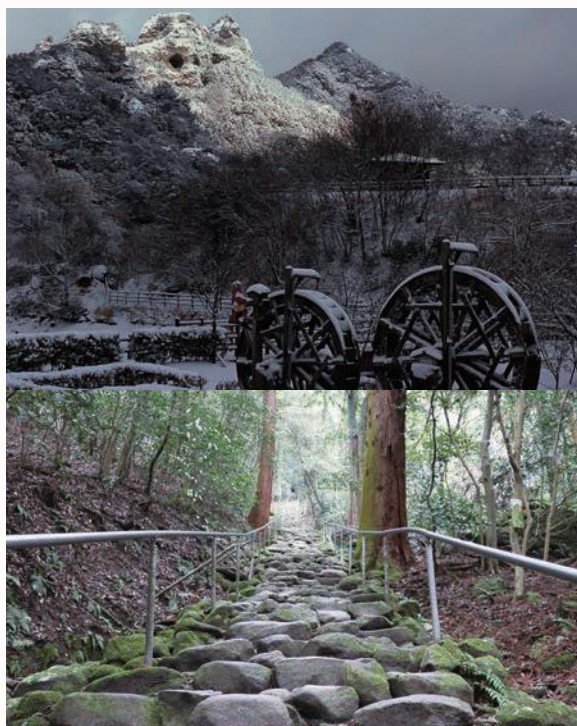
■認定ストーリー概要

「くにさき」の寺には鬼がいる。一般に恐ろしいものの象徴である鬼だが、「くにさき」の鬼は人々に幸せを届けてくれる。

おどろおどろしい岩峰の洞穴に棲む「鬼」は不思議な法力を持つとされ、鬼に憧れる僧侶達によって「仏（不動明王）」と重ねられていった。

「くにさき」の岩峰につくられた寺院や岩屋を巡れば、様々な表情の鬼面や優しい不動明王と出会え、「くにさき」の鬼に祈る文化を体感できる。

修正鬼会の晩、共に笑い、踊り、酒を酌み交わす——。「くにさき」では、人と鬼とが長年の友のように繋がる。



鬼城(並石)に代表される岩峰と洞穴の景観に
修正鬼会の習俗や伝説を重ね合わせるストーリー

修正鬼会を守り伝える人々



■清末 恒昌さん 長岩屋修正鬼会保存会会長

“いつまでも修正鬼会を伝えたい！”

長岩屋地区は高齢化・過疎化が進む小さな集落ですが、皆様方の温かいご支援・ご協力のおかげで、修正鬼会という大きな行事を何とか毎年実施できています。

鬼会の準備になると、地区の住民や、地域外に出た仲間も集まってきて、細かい指示をしなくても、準備が進んでいきます。大変な作業も多いのですが、皆が鬼会を大切なものと考えているし、最後は皆鬼会を楽しんでいます。

これからも修正鬼会を後世に伝承できるよう努めてまいります。



■松本 量文さん 長安寺・天念寺住職

“修正鬼会は仏様に近づく特別な瞬間”

天念寺修正鬼会は、先々代の住職が院主を受けてから、長安寺の住職が兼務してきました。修正鬼会は、地区と寺院が一致団結しなければ実施できない行事ですから、地元の方の鬼会への強い思いにお応えして、しっかりとお勤めしています。

鬼役を20年近くしましたが、鬼になる時には“別の存在”になる感覚がします。長年勤めると仏様の御加持をそのまま参拝者に施しているような感覚で、これは僧侶にとっても特別な瞬間です。

口伝やカセットテープで伝わってきた読経なども、デジタル方式で記録に残すように工夫して、修正鬼会の伝統をそのままの形で未来へ繋いでいきたいと考えています。



■戴星学園の児童生徒の皆さん

長岩屋地区に近い豊後高田市立戴星学園の児童・生徒の皆さんも、お囃子を奏でる楽師として修正鬼会に参加しています。

修正鬼会の日に備えて、笛や太鼓の練習に励んでいます。

■目的地までのアクセス



- ◎公共交通機関からのアクセス
大分空港⇄天念寺・鬼会の里
レンタカー 所要時間【約40分】
宇佐駅⇄天念寺・鬼会の里
レンタカー 所要時間【約20分】
- ◎高速道路からのアクセス
農業文化公園IC⇄天念寺・鬼会の里
車 所要時間【約40分】
宇佐IC⇄天念寺・鬼会の里
車 所要時間【約40分】
- ◎豊後高田市市街地より
車 所要時間【約15分】

■長岩屋伝統文化伝習施設「鬼会の里」(豊後高田市立鬼会の里歴史資料館)のご案内



大迫力の映像と音で修正鬼会が体感できるシアターや、無明橋を渡る体験が出来る原寸大レプリカやVRもあります。

食事処ではダシにこだわった美味しいそばも食べる事が出来ます！

- 営業時間 [4～11月] 9:00～17:00
[12～3月] 9:30～16:00
- 休館日 第2・4火曜日
- 入場料 大人 300円(団体で200円)
子ども150円

【参考文献】 大分県教育委員会(1977)『国東半島の修正鬼会』/大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館(1993)『豊後国都甲荘の調査』/大分県立歴史博物館(2002)『千年のいのりー聖なる山・くにさきー』/大分県立歴史博物館(2017)『開山1300年記念 聖なる山 六郷満山と仁聞』/大分県立歴史博物館編著(2018)『聖なる霊場・六郷満山』戎光祥出版/九州国立博物館(2017)『六郷満山開山1300年記念 大分県国東宇佐 六郷満山展～神と仏と鬼の里～』/櫻井成昭(2005)『六郷山と田染荘遺跡 九州国東の寺院と荘園遺跡』同成社/豊後高田市(1996)『豊後高田市史 特論編』/豊後高田市教育委員会(2016)『六郷満山寺院群詳細調査報告書』/豊後高田市教育委員会(2014)『都甲谷の歴史ー六郷満山と吉弘氏ー』/豊後高田市教育委員会(2017)『国指定名勝天念寺耶馬・無動寺耶馬』パンフレット

国指定重要無形民俗文化財/大分県豊後高田市 『天念寺修正鬼会の世界』

発行：長岩屋修正鬼会保存会
監修：豊後高田市教育委員会文化財室
発行日：令和3年3月31日
印刷：有限会社 宗印刷所 表紙：災払鬼の登場のようす